

令和7年度 人権教育研究指定校事業（1年次）

1 学校の概要

- 東に本庄、南に嵩山を境にして朝酌、西に川津、北は島根半島の稜線をなす北山山地の南麓に島根町加賀、野波に接して広がり、東西南北それぞれ約4km四方、面積約1,600haで旧松江市21公民館区の中で4番目の広さをもつ。
- 東から福原、坂本、川原、東持田、西持田の5地区に、約1,800世帯と約4,000人の人口を有する新興住宅と農村が混在する地域である。耳高団地、竹崎団地、平成ニュータウンなどの住宅団地の建設が進み、一時期児童数が増加したが、平成9年を境にやや減少し、グリーンテラス等の建設などにより現在は横ばい状態にある。
- 住民の教育に対する関心は高く、自治会組織が充実している。昭和28年の持田村の松江市合併を機に「持田奨学会」から改称された「持田教育会」は、通学児童の有無にかかわらず持田地区全家庭を対象に組織されている。持田教育会を中心として、地域住民は学校教育への支援及び社会教育の推進に協力的である。

2 学校運営

(1) 学校教育目標

「自分の力を信じ 目標に向かって たくましく生きる 持田っ子の育成」

(2) めざす学校像

笑顔があふれ 楽しくて 幸せを感じられる 学校（楽幸）

- 誰もが自己肯定感を持ち ありのままの自分が認められる場に
（子どもを大切にす学校）
- 子どもの成長を通して 家庭の笑顔が増える場に
（保護者と共に成長する学校）
- 地域に開かれ 地域と連携し 地域の誇りとなる場に
（地域と協働する学校）
- 教職員にとって 互いに尊重し合い 自己成長ができる場に
（教職員がやりがいを感じる学校）

(3) めざす子ども像

も 持っている学力をさらに伸ばそうとする子（確かな学力）

- ・主体的に取り組む力
- ・自分で考える力
- ・計画を立てて学ぶ力
- ・方法を工夫して解決する力

ち 挑戦する気持ちを持ち、得意なことを高めていこうとする子（心身の健康）

- ・粘り強く取り組む力
- ・目標を立てる力
- ・自分の成長を振り返る力

だ 誰に対してもやさしい心を持ってかかわろうとする子（豊かな心）

- ・他者と対話する力
- ・命や人権を大切にす心
- ・互いの思いや立場を考えて行動する力

3 研究の概要

(1) 研究主題

「友だちとかかわり、主体的に学び合う子どもの育成」
～ SWPBS の多層支援システムを活用して ～

(2) 研究主題を設定した理由

本校は「自分の力を信じ 目標に向かって たくましく生きる 持田っ子の育成」を学校教育目標に、また「笑顔があふれ 楽しくて 幸せを感じられる 学校（楽幸）」をめざす学校像として掲げ、人権教育をすべての教育活動の基底に据えて、実践を重ねている。

児童は、全体的に素直で明るく、するべきことがわかると一生懸命取り組む。一方で、自分の思いを相手に分かるように伝えたり、自分で判断して行動したりすることが苦手な傾向にある。また、友達の思いを十分に考えず、乱暴な言葉や行動で相手を傷つけてしまうこともある。

このような児童の実態から、また、めざす子ども像の「だ」誰に対してもやさしい心を持って関わろうとする子を受け、児童一人一人が「自分のよさ」「友達のよさ」「集団のよさ」に気づき、自分と他者との違いを認めることによって、自分を大切に、友達も大切にできる集団を育てたいと願い、本主題を設定した。

昨年度は、これまでの研究を受け「友達とかかわることで、考えを深める」ことに主眼をおきながら、友達とかかわり、需要的共感的雰囲気の中で温かく学び合うことで自分の思いや考えと友達の思いや考えを比較・検討・調和・融合し、自分の考えを確立しながら深めることにつながる授業づくりをめざした。その中で、子ども達は友達とかかわり需要的共感的雰囲気の中で学び合うことで、自分の思いや考えと友達の思いや考えを比較・検討・調和・融合することで自分の考えを確立し、考えを深めようとする姿が見受けられるようになってきた。

そこで今年度は、**SWPBS**（School-Wide Positive Behavioral Support 学校全体で取り組むポジティブな行動支援）の多層支援システムを活用することで、主題にせまっていく。

(3) 研究の重点・特色について

研究の重点としては、以下3点の基盤づくり（環境整備と共通理解の形成）を中心に据えて行った。

①安心して学び合える学級・学校風土の土台づくり

- ・学校全体で共通の行動目標を設定（例：「あいさつ」「時間を守る」など）
- ・望ましい行動を具体的に示し、繰り返し指導
- ・肯定的な声かけ・価値づけの意識化
- ・ペア・グループ活動の基本的な進め方の指導

②主体的に学ぶための授業改善の基礎づくり

- ・「問い」を大切にした授業づくり
- ・自分の考えを書く・話す場面の保障
- ・振り返り活動の定着（何を学んだか・どう学んだか）

③SWPBS 第1層支援の充実

- ・学校共通のルールや行動規範の明確化
- ・行動目標の掲示・見える化
- ・ポジティブな評価（称賛カード・シールなど）
- ・教職員の指導の足並みをそろえる

また、研究の特色としては、以下3点を中心に据えて行った。

①「開発的支援」を中心に据えた学校改善

問題対応型ではなく、発達支持型の学校づくりを目指す。

②学習と生徒指導の一体化

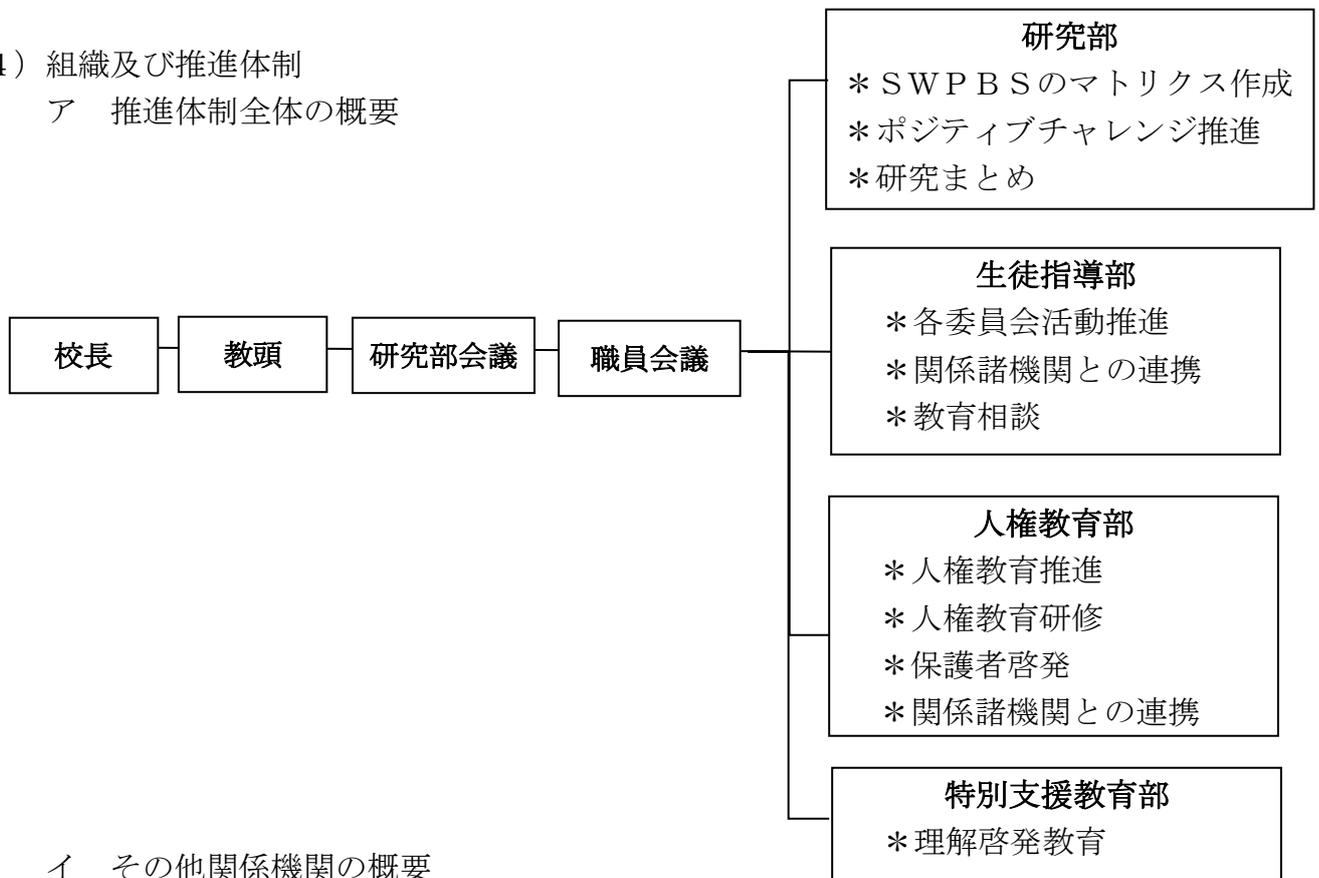
- ・学び合いが成立するための行動スキルを明確化
- ・「話の聞き方」「伝え方」も学習内容として指導

③全職員による組織的取組のスタート年

- ・SWPBSに関する校内研修の実施
- ・行動データの収集方法の検討
- ・共通理解を図るための話し合いの充実

(4) 組織及び推進体制

ア 推進体制全体の概要



イ その他関係機関の概要

島根大学教育学部特別支援教育専攻 助教 小山穂菜美先生

ウ 組織及び推進体制構築に当たって特に留意した点等

管理職のリーダーシップのもと、上記の組織図のとおり学校全体で計画を進めている。

(5) 研究の経過及び内容

時期	内容
4月上旬	・SWPBS についての校内研修（講師：島根大学助教 小山穂菜美）
5月	・SWPBS マトリクス作成 ・児童アンケート
6月	・教育相談
7月上旬	・研究授業（1年算数、2年国語） ・SWPBS 先進校への視察（徳島県美馬市立脇町小学校、徳島県教育委員会）
7月中旬	・児童アンケート
7月下旬	・SWPBS についての校内研修（講師：島根大学助教 小山穂菜美）
9月	・「ポジティブチャレンジ」の取組について児童へ説明（始業式） ・児童アンケート
10月	・研究授業（1年算数）
11月	・同和問題学習研究授業（6年社会科） ・人権教育授業公開日 ・PTA 研修会（講師：五明田典子（島根県スクールカウンセラー）「こどもの思いを大切にしたい子どもへのかかわり」） ・教育相談
12月	・人権集会 ・児童アンケート
1月	・研究部会議（指導助言：島根大学助教 小山穂菜美） ・研究授業（2年国語）
2月	・児童アンケート
3月下旬	・SWPBS についての校内研修（講師：島根大学助教 小山穂菜美）

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

○ **SWPBS** について、ほとんどの教職員が知らない状態からのスタートであった。そのため校内研究として取り組むにあたり、まずは **SWPBS** についての理論や取組の概要、期待される効果と本校児童にとっての必要性を認識し、共通理解を図ることから始めた。

年間を通して計5回島根大学助教小山穂菜美先生から指導を受ける機会を設定すると共に、校内研究の進捗状況や取組方法などを丁寧に指導して頂いた。

また、7月に先進校視察（徳島県）を実施することで、実際の取組と成果等を校内で共通理解を図り、**SWPBS** の理論面と先進校での実際の取組方法の理解を深めた上で等につ



講師小山先生による校内研修

いて、研究部を中心として本校の児童の実態に合った実施計画の準備を進め、全教職員への共通理解を図ることができた。

さらに、1学期間は準備期間とし、2学期からの本格的スタートを目指して研究部でマトリックスの作成に取り組み、児童へのフィードバックの仕方等の環境整備を行った。

- SWPBS の取り組みを、校内研究だけでなく保護者を含めた学校全体を挙げた取組にするために、PTA 総会の場で校長より保護者へ説明を行い協力を要請し、学校評価においても保護者・児童の評価として位置付けた。

また、学校だより等で取組の様子や児童の変容などを家庭にフィードバックすることで、保護者の意識も高まり、家庭の会話の中でも「ポジティブに考えようね」といった発言が聞かれるようになったと児童が認識し始めた。

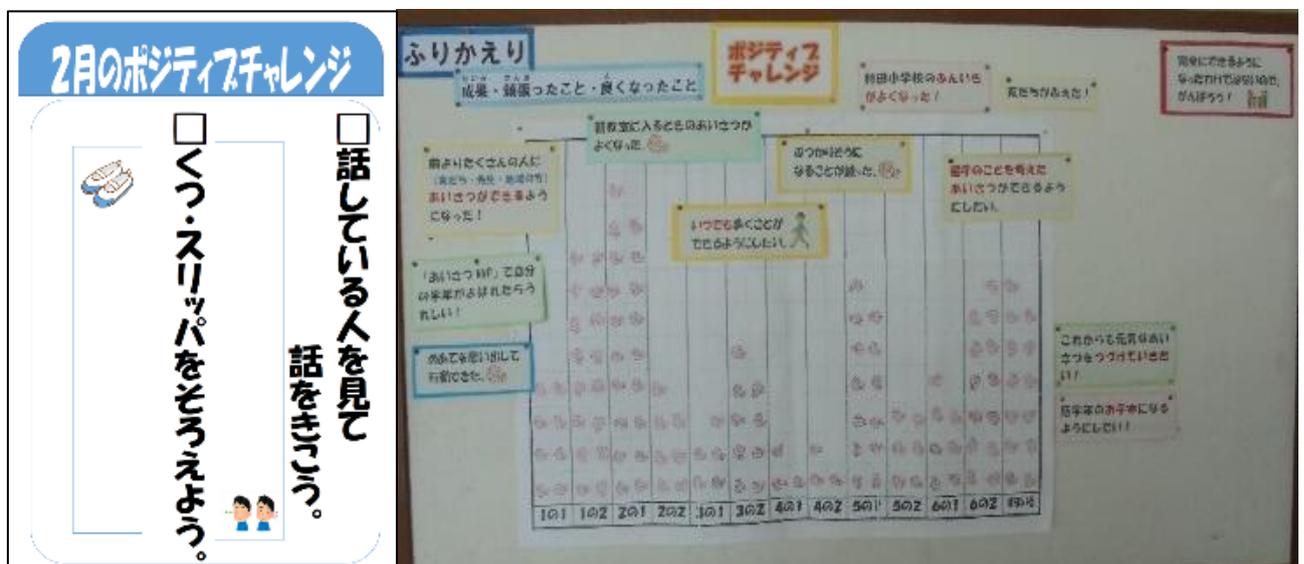
- SWPBS の取組については、学校教育目標との関連性を明らかにすると共に、児童一人ひとりが『楽幸』を作り上げていく主体としての意識を高めるために、全児童に取組の名前を公募し『ポジティブチャレンジ』と名称を定めた。

このことにより、児童一人ひとりの中に SWPBS = 『ポジティブチャレンジ』 = 『楽幸』の構図を理解させることができ、取組に対する意欲を高めることができた。



- 毎月全校で共通した目標を設定し、全教室にポスターを掲示して終礼時に各学級で毎日振り返りをした。学級で8～9割の児童が目標を達成することが出来た場合、児童昇降口前の掲示板に掲示してある一覧表に花丸のシールを貼った。

自分のクラスだけでなく他学級のシールの状況を見て「妹のクラスも頑張っているな」「このクラスは高い目標で頑張っているんだな」「自分達ももう少し頑張ろう」などと言いながら意欲を高める児童の姿を見受けることができた。



全教室に掲示したポスターと児童昇降口に掲示した一覧表

○ 研究だよりで取り組みの進捗状況を知らせることにより、全教職員で共通理解を計り、足並みを揃えることが出来た。

また、「これから頑張ること・頑張っていきたいこと」についても話し合うことで、今月の振り返りを翌月の取組につなげることができた。

研究だより

令和7年10月14日
特小小学校
研究部 No.17
文責:門脇

2学期の児童アンケートのご協力をよろしくお願い致します

先生方に大変お世話になり、児童生活アンケートを実施させていただきました。2学期から本務科にて『ポジティブチャレンジ』を実施するにあたり、質問項目をマトリックスに合わせて若干変更させていただきます。

R7 1学期アンケート項目 (5月・7月)

- 話を聞くときは、話すの方を見て聞いていますか。
- 集会の時は、すばやくだまって整列できていますか。
- 休み時間の終わりのチャイムを聞いたら、すぐに教室にもどっていますか。
- くつやトイレのスリッパをいつもそろえていますか。
- だれにでも丸持ちの傘がいっしょにつけてありますか。

R7 2学期アンケート項目 (9月・12月)

- 休み時間の終わりのチャイムを聞いたら、すぐに教室にもどっていますか。(9月)
- 集会の時は、すばやくだまって整列できていますか。(9月)
- ろう下を静かに歩いていますか。(9月)
- 話を聞くときは、話すの方を見て聞いていますか。(10月)
- くつやトイレのスリッパをいつもそろえていますか。(11月)
- だれにでも丸持ちの傘がいっしょにつけてありますか。(12月)

9月のアンケートは、**9月12日までに実施して頂きますようお願いいたします**。QRコードは、別途お知らせします。

トイレのスリッパにしかけをします

トイレのスリッパをそろえる事として、『高マッスルの靴合わせ特許靴』を準備します。半長のように、同じ高マッスルの靴をそろえると、スリッパがずれやすくなります。スリッパの構造によって、踏みこんでしまっているものもあります。学期の初めに「正しい履き方」の上で高マッスル靴を履いてもらい、正しい履き方を覚えていただきます。(すべてトイレの入り口に白いペンキで型番が書いてあります。)

ポジティブチャレンジ表について

9月26日に、『ポジティブチャレンジ』の取り組み方についてお知らせしましたが、多くの方からのご意見を頂き、**達成率を『8割』〜『9割』**に設定させて頂きます。学年の実態に応じて『3』を活用して頂きますようお願いいたします。

9月のポジティブチャレンジ

時間を守り、すばやくだまって整列・集合しよう

ろう下を静かに歩こう

9月のポジティブチャレンジ

時間を守り、すばやくだまって整列・集合しよう

ろう下を静かに歩こう

目標は、「学校で決めた約束を守ることは、約束を守る人から褒められる。褒められるのは、うれしい。」

1日振り返り、8割の達成率で『時間を守り、すばやくだまって整列・集合しよう』『ろう下を静かに歩こう』それぞれについて『シール』を貼って下さい。これらの方は**8割の達成率**です。9月の出席日は20日です。『16個目の野暮を赤にしています。』ポジティブチャレンジは、**1つの表につき1日1枚のシール**です。担任の先生は、①シールの自認記録をお渡ししておりますので、担任の先生または日本などの担任の先生からシールを頂いた児童は、シールを貼ってください。

氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

校内放送については、後日お知らせします。

具体的な取り組み方法について知らせた研究だより

研究だより

令和7年10月14日
特小小学校
研究部 No.17
文責:門脇

9月のSWPBSの振り返りを掲示します

9月のポジティブチャレンジの振り返りを校内放送でお知らせしましたが、まとめたものを掲示します。子ども達の中に随分浸透してきたように思います。中でも、

- 歩くようになったら、走っている人がとても気になるようになった。
- ポジティブチャレンジの表が面白くなった。
- 花丸がもらえるのがうれしくて嬉しかった。
- 他の学年も一緒に取り組めたので、みんなで声をかけして意欲が高まった。
- 先生に声をかけられなくても、自分たちで考えて動けるようになった。
- 毎日ちゃんとやっていると、それが習慣になるから、続けて頑張りたい。
- 10月のめあても頑張ろうと思う。
- 10月も忘れずにしたい。

という振り返りは、ポジティブチャレンジの取り組みが子ども達にプラスに働いていることを示していると考えます。10月の取り組みもよろしくお願いいたします。

○「時間を守り、すばやく黙って整列・集合しよう」

○「ろう下を静かに歩こう」9m

【取り組んだこと】

- 発声、帰りの会で振り返る。
- ポジティブチャレンジを席に集まって行動する。朝、走らず静かに教室に上がる。
- ろうかをだまって静かに歩く。
- だまって並ぶ。
- 時間を守って、素早く整列・集合する。
- 朝のかばんの準備を8時25分に間に合わせる。
- 休室などの整列で、だまって集合することができるようになりました。
- 3時間目と5時間目の始まりを特に意識して守る。

【成果・頑張ったこと・良くなったこと】(時間)

- 時計を見て行動できた。
- チャイムが響く前に座れるようになった。
- かばんの準備はほとんどの人が合格できた。
- 授業が始まるまでに準備をした。(準備が速くなった。)
- 宿泊研修で学んで5分前行動を思い出した。
- 授業の終わりにゆとりができた。
- 落ちついて次の時間の準備ができるようになった。
- 準備が速くなった。上手になった。
- すぐに準備・片付けができるようになった。
- 移動が早くできるようになった。
- 並ぶのが速くなった。
- 先生に言われなくても整列する人が増えた。
- ちょっとだけ整列するのが速くなった。
- 速く並ぶように声をかけをする人が増えた。
- ろうかに並ぶのが素早くできるようになった。(とてもなかなか難しかった。)

【成果・頑張ったこと・良くなったこと】(廊下歩行)

- ろうかを走る人が減った。
- 走っている人がいたら、注意できた。
- ろうかを歩くことが増えた。(友達がどうしても声をかけられた。)
- 右側を歩くのを意識するようになった。
- 静かに歩くのを意識するようになった。
- 一度手を止められたが、みんなが注意しあって歩くようになった。
- 歩くようになったら、走っている人がとても気になるようになった。
- 廊下の会のふりかえりが楽しかった。
- 静かにすることや、ろうかを歩くことは簡単なことではないことが分かった。(つい走ってしまう)
- ポジティブチャレンジの表が面白くなった。
- 花丸がもらえるのがうれしくて嬉しかった。
- 他の学年も一緒に取り組めたので、みんなで声をかけをして意欲が高まった。

【成果・頑張ったこと・良くなったこと】

- 落ちついて過ごすことができるようになった。
- 忘れ物が減ってきたような気がする。
- 帰りの会のふりかえりが楽しかった。
- 9年生の花丸が多くてすごかった。
- 静かにすることや、ろうかを歩くことは簡単なことではないことが分かった。(つい走ってしまう)
- ポジティブチャレンジの表が面白くなった。
- 花丸がもらえるのがうれしくて嬉しかった。
- 他の学年も一緒に取り組めたので、みんなで声をかけをして意欲が高まった。

【これから頑張ること・頑張っていきたいこと】

- これからも、授業に間に合うように行動したい。
- これからも、ろうかを走らないようにしたい。
- ろうかを走らないようにしたい。
- ろうかでは遊ばない。
- 時間ギリギリになると走ってしまうことがあるので、時間によろしくを持って行動したい。
- また静かに歩けない。「静かに並ぶ、歩く、集合する」ができていないことが多いから、今後も頑張る。
- ろうかを走らないように意識する。
- 静かに普通に歩くようにする。
- 集合は静かにする。
- 前走もできるようにしたい。
- 10月も忘れずにしたい。
- 10月のめあても頑張ろうと思う。
- 先生に声をかけられなくても、自分たちで考えて動けるようになった。
- 友達の声で動く人もいるから、みんなが時計を見て行動する。
- 毎日ちゃんとやっていると、それが習慣になるから、続けて頑張りたい。

月ごとの振り返りを載せた研究だより

- 全校児童を対象として、5月・7月・12月・2月の計5回、児童の意識調査を実施し、『ポジティブチャレンジ』（SWPBS）の取組における児童の意識変容を分析した。（n＝全校児童数）

全てのめあてに関して、肯定的な回答をしている児童数が80%を達成している。特に、「話を聞くときは、話す人の方を見て話しを聞く」「休み時間の終わりのチャイムを聞いたら、すぐに教室にもどる」の二つの目標は、90%以上の児童が肯定的回答をし、成果意識を高めることができた。

「くつやトイレのスリッパをそろえる」「ろう下を静かに歩く」（追加で実施しためあて）は、実態として確実に良くなっているが、児童の意識が高まったことにより児童自身の基準が高くなったことで、全体的に肯定的回答が減ったと考えられる。

令和7年度 持田小学校SWPBS全校児童アンケート結果（5月・7月・12月・2月） n=全校児童数



- SWPBSの取組を通して、教師の児童を褒める視点が明確化されることで、全校で統一した指導を行うことができた。それにより、児童自身が「良くしていきたい」という主体的な意欲を全校で統一して意識を高めることができた。

(2) 成果を踏まえての課題

- 教師から見た評価基準と児童の自己評価基準にズレがあり、統一していく必要がある。また、学年の発達段階により児童自身のみならず教師の期待する姿が異なる。児童自身が、自分が今どのぐらいのレベルにいるのかということも明確に認識をし、積極的な取組にしておくためにも、学年に応じた評価基準を工夫する必要がある。
- 年間を通した取組の中で、ややマンネリ化をしてきた部分があった。学習発表会や6年生を送る会など、学校行事の中で校長先生より大型の花丸シールを頂き、児童の意識が高まる場面が多くあった。月ごとの目標達成に合わせ、このような大きなイベントでも児童の頑張りを認め・励ます仕掛けを今後も考えていきたい。

- 1年間のSWPBSの取り組みは、学校全体に良い影響を及ぼしたと言える。落ち着いた学校生活を送ることができる児童が増え、ポジティブな考え方が浸透してきたように思う。来年度も『楽幸』を目指して更なる取組を継続、発展させていく必要がある。



校長先生から頂いた大きな花丸シールを貼る児童